

これは、名古屋大学名誉教授の板倉達文氏が名大在職時と退職後にまとめた、下記の 2 冊の翻訳の仕事です。

1 Les systemes socialistes / Vilfredo Pareto (パレート『社会主義体系』)

2 La classe ouvriere et les niveaux de vie : recherches sur la hierarchie des besoins dans les societes industrielles contemporaines / par Maurice Halbwachs (アルブヴァクス『労働者階級と生活水準』)

この翻訳作業は先生のライフワークではほぼ完成間近で出版する予定でしたが、道半ばで病に倒れ、2012年7月に帰らぬ人となりました。その生前の成果を多くの人に見てもらいたいという遺族の強い希望で、名古屋大学リポジトリに公開することになりました。

パレートは「パレート最適」という言葉で経済学者として有名ですが、社会学でも「エリートの周流」の概念や残基や派生体などの「非論理的行為」に注目した人として知られています。『社会主義体系』は経済学から社会学へ移行する過程の著作です。アルブヴァクスはフランスのデュルケーム社会学派の1人で、「集合的記憶」の概念を提唱した人であり、『労働者階級と生活水準』は初期の著作で博士学位論文です。

この2人は社会学説史や理論社会学の研究にとって重要な人物ですが、この2冊はまだ翻訳されておらず、貴重な資料であることはまちがいありません。なお、翻訳作業にあたっては、先生は一度原稿用紙に手書きし、その手書き原稿をワープロ化しました。翻訳文には、■の部分はいくつかありますが、文字変換できなかった箇所です。また、当時大学院生であった阿部純一郎、渡辺克典、松木孝文、翁川景子には、手書き文書とワープロ文書を照らし合わせ、誤字、脱字等のチェックをしてもらっており、その協力に感謝の意を表したいと思います。まだ、いくつか誤訳、誤字があるかもしれませんが、先生の遺稿をそのまま載せていますので、ご了承いただきたいと思います。

最後に、先生はパレートに対しては、すでに『一般社会学提要』(名古屋大学出版会)、『社会学大綱』(青木書店)の翻訳本に関わっており、並々ならぬ思いがありました。生前、パレートの著作には日本であまり知られていない重要な著作がまだあるので、さらに翻訳したいと言っておられました。その夢をかなえることができなかつたことは大変残念でなりません。謹んでご冥福をお祈りします。

名古屋大学環境学研究科 社会学講座 准教授 河村則行